

稲作情報 No.11

水稻生育・病虫害注意・大豆管理

水田農業レベルアップ委員会 技術普及推進部会〔作成：福井県農業試験場、福井米戦略課、JA福井県中央会〕

農業試験場の5月2日に移植したハナエチゼンの幼穂形成期は**平年より1日早い**6月26日となりました
生育が早い大豆圃場では、本葉3～4葉が展開中です

今後は高温多湿のジメジメした天候が続く見込みで、**病虫害（特にいもち病、紋枯病、斑点米カメムシ類）の発生に注意**が必要です

【水稻】

幼穂形成期となった品種は中干しをやめ、**間断通水**の水管理としましょう。また**必要に応じて穂肥を実施**しましょう

葉いもちの病斑を確認した場合は、**すぐに治療効果のある薬剤を散布**しましょう

紋枯病の粒剤での防除適期は今頃です（紋枯病の詳しい説明は後述）

斑点米カメムシ類の多発を防ぐため、**畦畔・大麦跡地の雑草地の草刈りの徹底や、病虫害の防除を適期**に行いましょう

【大豆】

天候や土壌の渇き具合を見ながら、**遅れずに1回目の培土（本葉3～4葉期）を実施**しましょう

土壌が湿潤で培土ができない場合は、雑草の繁茂を抑えるため、**除草剤の散布を優先**させましょう

県下一斉の畦畔草刈り実践デー

2回目 7月6日（土）、7日（日）

（今週末が2回目の畦畔草刈り実践デーです）

斑点米カメムシの生態は稲作情報No.6参照



クモヘリカメムシ



アカスジカスミカメ



マルバルコウ

○ 穂いもちの防除時期（液・粉剤）

1回目	穂孕期～出穂直前（出穂7日前～出穂前）
2回目	穂揃期（出穂2～3日後、カメムシと同時期）

○ 斑点米カメムシ類の防除時期（液・粉剤）

1回目	穂揃期～乳熟期（出穂3～5日後）
2回目	糊熟初期（出穂10～14日後）

多発地は3回目防除を実施



葉いもち病の病斑

○令和6年農作物病虫害発生予察予報第5号

	葉いもち	紋枯病	斑点米カメムシ類
発生量の予察予報	平年よりやや多い	平年よりやや多い	平年よりやや多い ※雑草地は非常に多い

○ いもち病の感染好適条件の発生状況

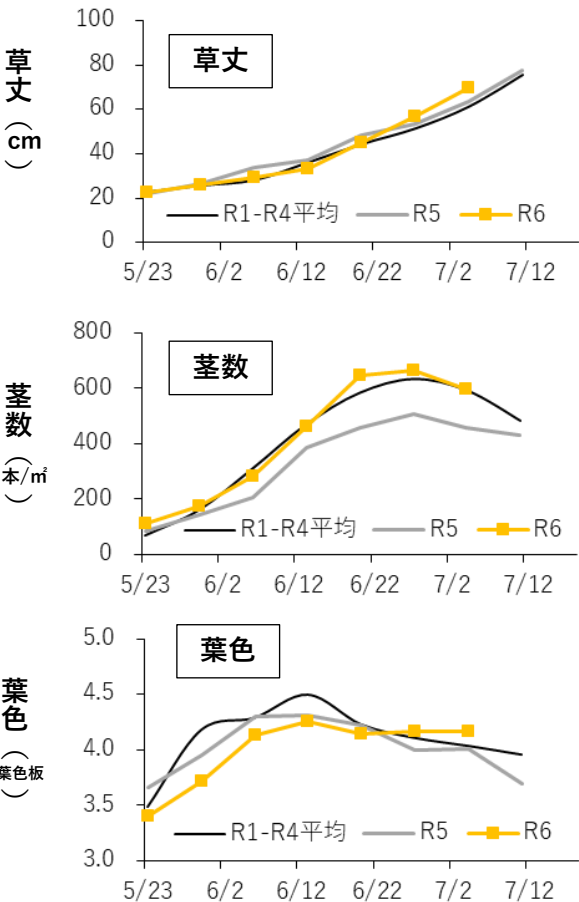
	三国	越前	福井	勝山	大野	今庄	敦賀	美浜	小浜
6/28	●	—	●	●	●	—	—	—	—
6/29	—	●	●	●	—	●	●	●	●
6/30	—	—	—	—	—	—	—	○	—
7/1	—	—	—	—	●	—	—	—	—
7/2	—	—	●	●	●	●	—	—	—
7/3	—	—	—	—	—	—	—	●	—
7/4	—	—	—	●	○	—	—	—	—

●：感染好適条件 ○：準好適条件 条件の解説は稲作情報No9参照

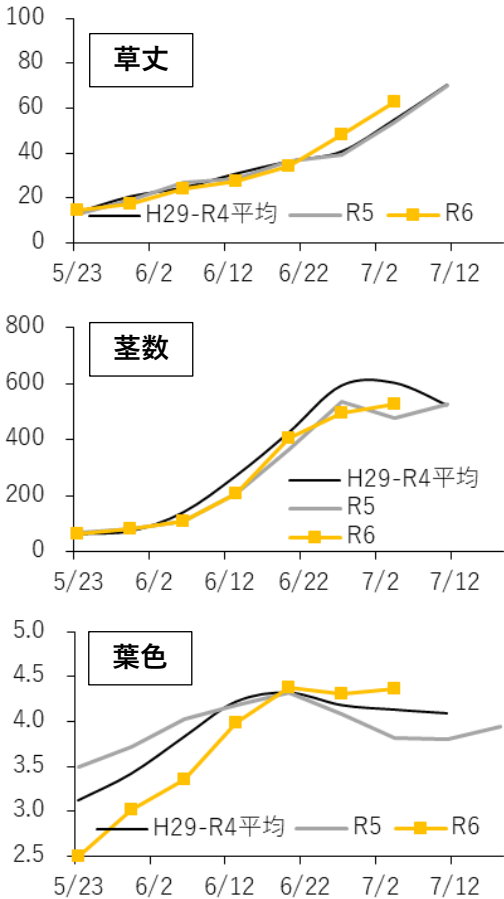
いちほまれ 生育状況 令和6年7月4日調査



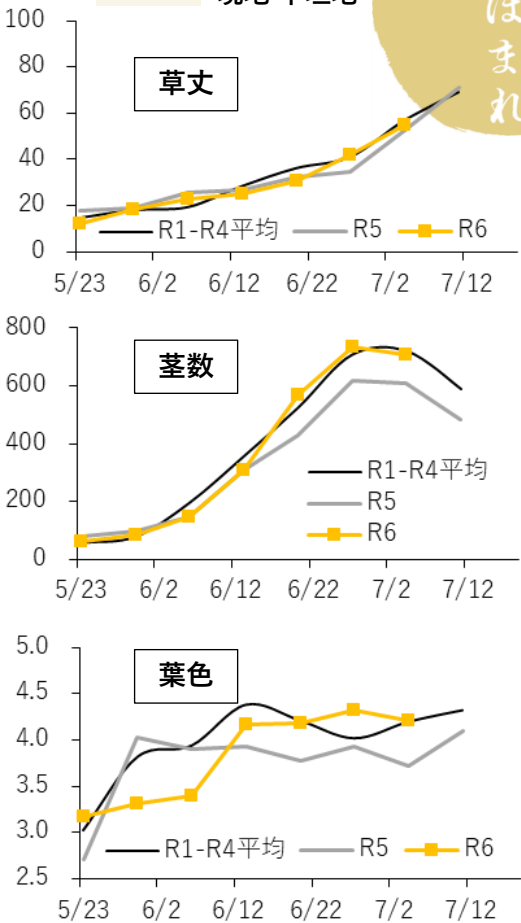
上旬移植 現地 平坦地



中旬移植 現地 平坦地

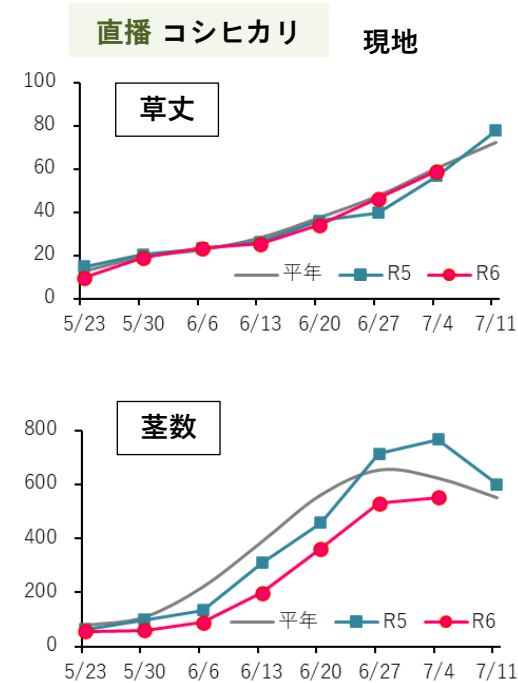
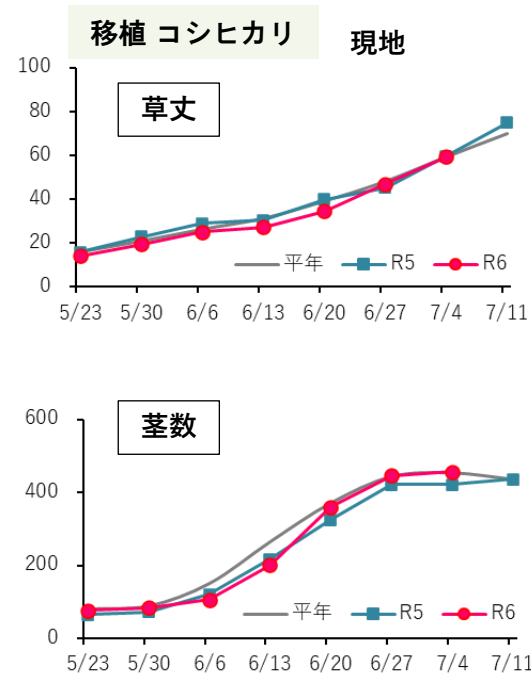
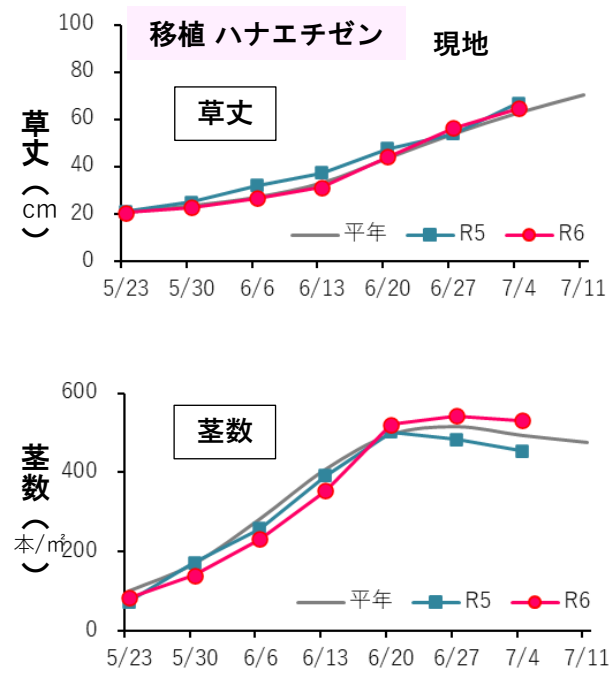


直播 現地 平坦地



	農業試験場		現地 平坦地			現地 中山間	
栽培方法	上旬移植	中旬移植	上旬移植	中旬移植	直播	中旬移植	直播
時期	5/2	5/20	5/2	5/19	5/5	5/16	5/10
地点数	1	1	7	7	8	2	1
草丈 cm	71.0	56.4	69.4	62.6	54.7	55.6	59.4
茎数 本/mi	774	555	599	525	709	560	927
葉色 葉色板	4.0	3.7	4.2	4.4	4.2	4.8	5.0

ハナエチゼン・コシヒカリ・あきさかり 生育状況 令和6年7月4日調査



品種		ハナエチゼン			コシヒカリ					あきさかり			
調査場所		農業試験場	JA坂井農場	現地	農業試験場	JA坂井農場		現地 (慣行栽培)		農業試験場		JA坂井農場	現地
栽培方法 移植・播種時期		移植 5/2	移植 5/1	移植 4/28	移植 5/20	移植 5/15	直播 5/7	移植 5/18	直播 5/3	移植 5/2	移植 5/20	移植 5/15	移植 5/15
地点数		1	1	8	1	1	1	15	4	1	1	1	3
草丈 cm	本年	70.8	70.0	64.6	62.0	66.0	50.1	59.4	59.1	65.1	53.1	54.3	60.9
	平年	65.8	64.1	62.6	61.7	61.8	61.1	59.4	60.6	61.4	53.3	52.2	57.1
茎数 本/㎡	本年	674	639	532	609	451	333	457	551	778	795	575	540
	平年	576	468	495	518	445	595	455	662	657	619	464	484
葉齢 枚	本年	11.9	12.4	11.4	10.2	11.0	10.4	9.2	10.2	11.6	10.6	11.5	9.6
	平年	11.9	11.6	11.4	10.5	10.3	10.1	10.0	9.8	11.5	10.7	9.7	11.0
葉色 葉色板	本年	4.5	4.8	4.7	3.9	4.6	4.7	4.4	4.4	4.5	4.3	4.8	4.5
	平年	4.7	4.5	4.4	4.2	4.2	4.2	4.1	4.3	4.4	4.5	4.2	4.6

紋枯病

- ・前年発生した菌核が土中で越冬するため、同じ圃場で発生する
- ・一旦、発病を低く抑えれば、増加しにくくなる
- ・病原菌は糸状菌（カビ）で、高温多湿で増加する。過繁茂で発生が助長される
- ・多発田は、箱剤や種子塗抹剤で予防する
- ・前年の多発田で箱剤等を施用していない場合や、予防剤の有無に関わらず病斑が多い場合は、本田防除を行う
- ・本田防除の時期は、粒剤は7月上旬、粉・液剤は穂ばらみ期（出穂の5～7日前）である
出穂が遅い圃場でも、7月下旬には防除する
- ・粉・液剤は株元の病斑にかかるようにする

品種ごとの出穂期（目安）

品種	移植時期	出穂期
ハナエチゼン	5月初旬	7／20頃
コシヒカリ	5月中旬	8／1頃
あきさかり いちほまれ	5月初旬	8／1頃
	5月中旬	8／5頃

* 農業試験場の平年値

* 薬剤によって施用時期が異なるため病害虫防除指針の36ページを参考にする
最新の登録状況を確認して施用する

[紋枯病の発生過程]



○要防除水準

①穂ばらみ期の診断

粉剤・液剤の施用基準（100株調査）

品種	判断時期 （穂ばらみ期）	発病株率 （％）
ハナエチゼン	7月中旬	10％以上
コシヒカリ 5月中旬移植	7月下旬	20％以上

②収穫期の診断

翌年の箱剤・種子塗抹剤の施用基準（150株調査）

品種	発病株率 （％）
あきさかり	25％以上
いちほまれ	40％以上

[詳細はこちら](#)